

2014



消防団概況

三重県松阪市

ごあいさつ



市民の皆さまには、日頃より消防団の活動につきまして、ご理解ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

私たち消防団員は「自分たちのまちを、自分たちで守る」という志気と郷土愛のもと、普段はそれぞれの仕事を持ちながら、災害時には常備消防と連携して消火活動や救助活動に取り組んでおります。災害出動などの消防団活動は昼夜を問わず、団員に係る精神的・肉体的負担は大きく、家庭や職場の皆様のご理解ご協力が不可欠であります。

こうした中、松阪市消防団は近い将来発生が危惧されております南海トラフ巨大地震等に備え、各分団に救助資機材を配備するとともに、消防団活動は時として危険が伴うこともあるため、ライフジャケット、トランシーバー等団員の安全装備面を充実させ、団員が活動しやすい環境づくりを整えながら、日々の訓練に取り組んでいます。

また、近年では異常気象によるゲリラ豪雨や積雪の被害など、身近なところでも災害による危機を感じるどころであり、市民の防災への関心も高くなっており、このような災害から市民の身体や生命、財産を守るため、消防団の役割も非常に重要なものだと感じております。

このような中、地域の安全と市民生活の安心を確保するうえで、消防団に寄せる市民の期待は、ますます大きくなってきております。

引き続き 17 万市民の方々の信頼と期待に応えられるよう、組織の充実・強化を図り、魅力ある消防団を目指し邁進していきたいと考えておりますので、皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

松阪市消防団統括団長 小林 憲行

松阪市の概要

<1> 位置と地勢

松阪市は、三重県のほぼ中央に位置し、東は伊勢湾、西は台高山脈と高見山地を境に奈良県に、南は多気郡、北は雲出川を隔てて津市に接しています。

地形は、西部一帯が台高山脈、高見山地、紀伊山地からなる山岳地帯、中央部は丘陵地で、東部一帯には伊勢平野が広がり、北部を雲出川、南部を櫛田川が流れています。



松阪市は後の三越の前身越後屋を江戸に開店させた三井グループ創始者の三井高利の生誕地であり、古くは商業の街として知られるとともに、「古事記伝」の執筆で著名な国学者本居宣長翁、「北海道の名付け親」松浦武四郎翁など優れた先人も多く輩出しています。

また名産の松阪牛は高級ブランド牛肉として、珍重されています。

<2> 気候

概ね東海型の気候区に属し、西部は寒暑の差がやや大きく内陸的な特性を持っています。

年間平均気温は14℃～16℃で、降水量は平野部では1,500mm程度ですが、山間部では2,000～2,500mmとかなり多くなっています。

全般的には温暖でおだやかな気候となっています。

<3> 面積

東西50Km、南北37Kmと東西に長く伸び、総面積で623.77Km²を有し、三重県全体の約10.8%を占めています。用途別にみると、耕地77.10Km²(12.4%)、宅地29.89Km²(4.8%)、山林427.71Km²(68.6%)となっており山林の占める割合が高くなっています。

<4> 人口と世帯

平成26年4月1日現在の総人口は168,987人で、県全体の約9%を占めています。

総世帯数は71,541世帯で、平成2年の48,273世帯に比べ24年間で約1.5倍の伸びを示しており、1世帯当たりの人員は約2.4人となり、核家族化が進んでいます。

人口と世帯数の推移

(単位:人)

区 分	平成 2 年	平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年	平成 26 年
総人口	159,625	163,131	164,504	168,976	168,017	168,987
世帯数	48,273	52,413	56,087	61,502	63,611	71,541
1世帯当たりの人員	3.31	3.11	2.93	2.75	2.64	2.36

<5> 市の沿革

旧松阪市

明治 22 年	市町村制の実施により松阪町となる。
昭和 8 年 2 月	市制施行により松阪市となる。
昭和 23 年 12 月	松江村、朝見村 編入。
昭和 26 年 12 月	伊勢寺村 編入。
昭和 27 年 12 月	機殿村 編入。
昭和 29 年 10 月	花岡町、東黒部村、西黒部村、港村、阿坂村、松ヶ崎村、松尾村 編入。
昭和 30 年 3 月	宇気郷村袖原、飯福田、与原、後山 編入。
昭和 30 年 4 月	漕代村、射和村、茅広江村、大石村 編入。
昭和 32 年 10 月	大河内村、櫛田村 編入。

旧嬉野町

明治 22 年	市町村制の実施により中郷村、豊地村、中川村、豊田村、中原村となり、小原、上小川、柚原、後山、飯福田、与原が宇気郷村となる。
昭和 30 年 3 月	中郷村、豊地村、中川村、豊田村、中原村並びに宇気郷村大字小原、大字上小川の区域をもって嬉野町となる。

旧三雲町

明治 22 年	市町村制の実施により米ノ庄村・天白村・鵠村・小野江村が成立。
昭和 30 年 3 月	4 ケ村が合併、三雲村として発足。
昭和 61 年 3 月	町制施行により三雲町となる。

旧飯南町

明治 22 年	市町村制の実施により柿野村、粥見村が成立。
大正 13 年 1 月	柿野村が町制施行により柿野町となる。
昭和 8 年 2 月	粥見村が町制施行により粥見町となる。
昭和 31 年 8 月	柿野町、粥見町が合併し飯南町となる。

旧飯高町

明治 22 年	市町村制の実施により宮前村、川俣村、森村、波瀬村の 4 ケ村が発足。
昭和 31 年 8 月	4 ケ村が合併し飯高町となる。

平成 17 年 1 月 1 日 松阪市、一志郡嬉野町、一志郡三雲町、飯南郡飯南町、飯南郡飯高町の 5 市町の合併により現松阪市となる。

<6> 消防団の沿革

旧松阪市消防団の沿革

寛政 6年		松阪に消防制度がはじめて布かれた。
明治29年	4月 1日	松阪消防組が編成された。
昭和14年	5月 1日	戦時体制となり、松阪市警防団と改称された。
昭和23年	8月 1日	消防組織法の施行により松阪市消防団として発足する。
昭和41年	8月 1日	現機構の23分団（432名）となる。（以前は28分団982名）
昭和42年	10月 1日	現機構の団員定数415名となる。
平成12年	7月13日	現機構の団員定数425名となる。
平成12年	8月20日	女性消防団員15名が誕生、さくら分団となる。

旧嬉野町消防団の沿革

昭和34年	3月26日	消防団条例施行による消防団設置規則で、6分団編成となる。
平成 8年	3月29日	嬉野町消防団設置規則改正により、団員定数250名となる。
平成 8年	4月 1日	女性消防団員20名が誕生、やまゆり分団となる。

旧三雲町消防団の沿革

昭和30年	3月21日	4ヶ村合併により、三雲村消防団発足。（団長以下305名、4分団）
昭和32年	3月30日	消防団条例制定。
昭和56年	2月 1日	消防団条例改正により団員定数265名となる。
昭和61年	4月 1日	町制施行に伴う名称変更のため三雲町消防団となる。

旧飯南町消防団の沿革

昭和31年	8月 1日	飯南町消防団発足。（団長以下237名、12分団）
昭和45年	3月16日	消防団条例改正により団員定数200名となる。
昭和48年	8月 4日	消防団区域規定改正により4分団となる。
平成 3年	4月 1日	女性消防団員20名が誕生、ひまわり分団となる。 消防団条例改正により団員定数220名となる。

旧飯高町消防団の沿革

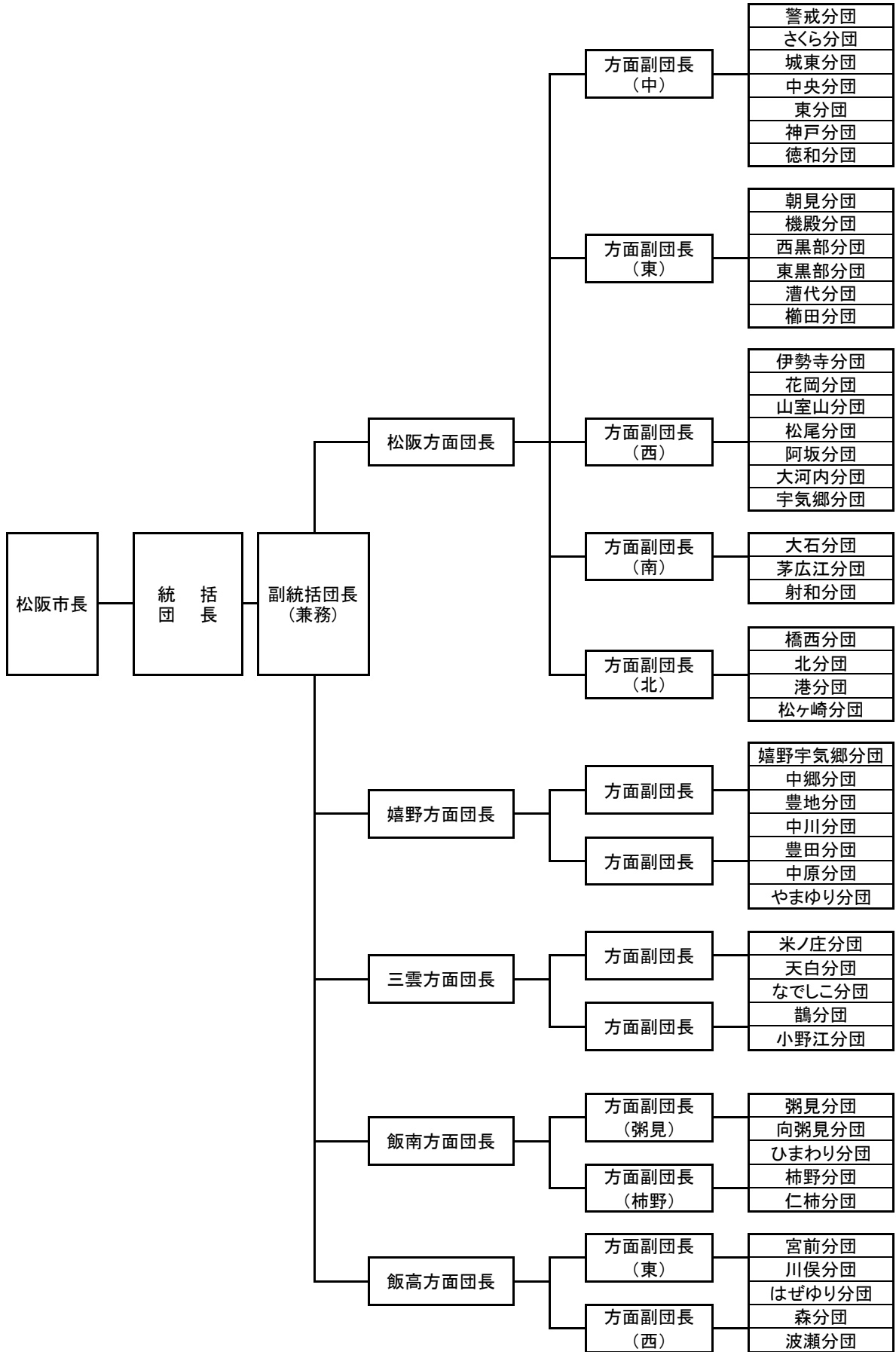
昭和31年	9月	町村合併により飯高町消防団として発足する。（団長以下370名）
昭和35年	4月	消防団条例改正により副団長を1名とし、団員定数360名となる。
昭和60年	3月	消防団条例改正により団員定数260名となる。
平成 2年	4月	女性消防団員6名が誕生、はぜゆり分団となる。 消防団員定数260名のうち女性団員数20名とする。
平成 4年	4月	消防団設置規則の改正により副団長を2名とし、団長以下260名となる。

松阪市消防団（新）

平成17年	1月	1日	1市4町の合併により、旧松阪市・旧嬉野町・旧三雲町・旧飯南町・旧飯高町各消防団を統一し、松阪市消防団となる。 団員定数 1,420 名。
平成17年	4月	1日	三雲方面団に女性消防団員10名入団、なでしこ分団となる。
平成17年	4月	17日	新松阪市消防団結団式挙行。 新基準活動服貸与開始。
平成17年	6月	9日	電子メールによる団幹部への災害連絡開始。
平成17年	12月	20日	全分団に消防団波携帯無線電話機配備。
平成18年	3月	20日	新基準盛夏服貸与開始。
平成18年	4月	1日	嬉野方面団の副団長を1名から2名とする。 組織改編により、松阪方面団に3分団（東分団(旧中央分団東町班)・神戸分団(旧神戸分団を徳和分団、神戸分団に分割増員)・花岡分団(旧花岡分団大黒田班を花岡分団に、同山室班を山室山分団に分割増員)）1班（橋西分団2班）を追加し、各分団団員定数を改正する。
平成19年	2月	21日	消防団員増員等の実績、消防庁長官より地域活動特別表彰 枠での表彰を受ける。
平成19年	4月	1日	松阪市消防団協力事業所表示制度施行。
平成19年	9月	1日	団員定数 1,420 名の確保。
平成20年	3月	7日	日本消防協会 特別表彰「まとい」受章。
平成20年	3月	16日	特別表彰「まとい」受章記念 披露式挙行。
平成21年	2月	27日	消防・防災訓練センター 消防訓練塔竣工。
平成22年	8月	26日	総務省消防庁より「消防団救助資機材搭載型車両」を貸与される。
平成23年	4月	1日	消防団員の処遇改善を目的として、団員報酬を見直し、松阪市消防団条例の一部を改正する。
平成25年	2月	26日	日本消防協会 「優良消防団（表彰旗）」受章
平成26年	4月	1日	消防団員の処遇改善を目的として、退職報償金を見直し、松阪市非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する。

<7> 松阪市消防団の組織

(団長以下5方面団 49分団 定数1,420名)



消防団の定数

平成26年4月1日現在

地区・分団 \ 区分	統括団長	方面団長	方面副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	合計
昨年実績	1	5	12	48	48	66	149	1,041	1,370
今年実員	1	5	12	49	49	69	151	1,074	1,410

消防団本部 統括団長		1							1		
松 阪 方 面 団	本 部		1	5					6		
	警 戒 分 団				1	1	1	2	11	16	
	さくら分団				1	1	1	2	10	15	
	中地区	城東分団				1	1	1	1	14	18
		中央分団				1	1	1	1	14	18
		東分団				1	1	1	1	10	14
		神戸分団				1	1	1	1	10	14
		徳和分団				1	1	1	1	13	17
		東地区	朝見分団				1	1	1	1	14
	機殿分団					1	1	1	1	13	17
	西黒部分団					1	1	1	1	13	17
	東黒部分団					1	1	1	1	13	17
	漕代分団					1	1	1	1	14	18
	櫛田分団					1	1	1	1	16	20
	西地区	伊勢寺分団				1	1	1	2	16	21
		花岡分団				1	1	1	1	12	16
		山室山分団				1	1	1	1	14	18
		松尾分団				1	1	1	2	15	20
		阿坂分団				1	1	1	2	15	20
		大河内分団				1	1	1	3	20	26
		宇気郷分団				1	1	1	2	12	17
	南地区	大石分団				1	1	1	2	17	22
		茅広江分団				1	1	1	2	14	19
		射和分団				1	1	1	3	19	25
	北地区	橋西分団				1	1	1	2	21	26
		北分団				1	1	1	2	14	19
		港分団				1	1	1	1	13	17
松ヶ崎分団					1	1	1	2	14	19	
合 計		1	1	5	27	27	27	42	381	511	

地区・分団		区分							合 計
		方 面 団 長	方 面 副 団 長	分 団 長	副 分 団 長	部 長	班 長	団 員	
嬉 野 方 面 団	本 部	1	1			1	2	38	43
	やまゆり分団			1	1	1	2	7	12
	嬉野宇気郷分団			1	1	1	2	17	22
	中郷分団			1	1	1	2	25	30
	豊地分団			1	1	1	5	30	38
	中川分団			1	1	1	5	35	43
	豊田分団			1	1	1	5	37	45
	中原分団			1	1	1	2	37	42
	合 計	1	1	7	7	8	25	227	275

三 雲 方 面 団	本 部	1	2						3
	なでしこ分団			1	1	1	1	7	11
	米ノ庄分団			1	1	4	12	43	61
	天白分団			1	1	3	9	45	59
	鶺鴒分団			1	1	3	5	33	43
	小野江分団			1	1	3	6	39	50
	合 計	1	2	5	5	14	33	167	227

飯 南 方 面 団	本 部	1	2					8	11
	ひまわり分団			1	1	2			4
	粥見分団			1	1	2	6	53	63
	柿野分団			1	1	2	8	48	60
	仁柿分団			1	1	2	3	24	31
	向粥見分団			1	1	2	4	19	27
	合 計	1	2	5	5	10	21	152	196

飯 高 方 面 団	本 部	1	2						3
	はぜゆり分団			1	1	1	1	13	17
	宮前分団			1	1	3	11	57	73
	川俣分団			1	1	2	9	35	48
	森分団			1	1	2	6	21	31
	波瀬分団			1	1	2	3	22	29
	合 計	1	2	5	5	10	30	148	201

運用中消防車両及びポンプ一覧
松阪方面団

平成 26 年 4 月 1 日現在

分団		区分		消防車両			小型動力ポンプ	
				積載車両	年式	種別	B-3級	台数
1	消防団本部	トヨタ	H 4年10月	普通	トーハツ H 8	1		
2	消防団本部	ホンダ	H15年12月	普通				
3	消防団本部	日産	H18年 9月	普通				
4	消防団本部 (総務省消防庁より借受)	イスズ	H22年 8月	普通	トーハツ H22	1		
5	消防団本部	ホンダ	H 1年11月	軽				
6	警戒分団	日産	H21年12月	普通				
7	城東分団	日産	H13年12月	普通	シバウラ H13	1		
8	中央分団	日産	H16年10月	普通	シバウラ H16	1		
9	東分団	日産	H19年10月	普通	ラビット H20	1		
10	神戸分団	日産	H18年12月	普通	シバウラ H18	1		
11	徳和分団	トヨタ	H 7年 1月	普通	シバウラ H 7	1		
12	朝見分団	日産	H 8年12月	普通	シバウラ H 8	1		
13	機殿分団	日産	H24年 2月	普通	シバウラ H24	1		
14	西黒部分団	トヨタ	H 7年12月	普通	ラビット H 7	1		
15	東黒部分団	トヨタ	H18年 3月	普通	ラビット H17	1		
16	漕代分団	トヨタ	H15年11月	普通	ラビット H15	1		
17	櫛田分団	トヨタ	H15年11月	普通	ラビット H15	1		
18	伊勢寺分団伊勢寺班	トヨタ	H 7年 1月	普通	シバウラ H 7	1		
19	伊勢寺分団荒井班	ダイハツ	H13年12月	軽	ラビット H 1	1		
20	花岡分団	トヨタ	H15年 2月	普通	トーハツ H15	1		
21	山室山分団	日産	H18年12月	普通	シバウラ H18	1		
22	松尾分団丹生寺班	いすゞ	H13年 2月	普通	ラビット H13	1		
23	松尾分団西野班	ダイハツ	H12年 3月	軽	ラビット H 1	1		
24	阿坂分団阿坂班	日産	H16年10月	普通	シバウラ H16	1		
25	阿坂分団美濃田班	ダイハツ	H12年12月	軽	シバウラ H 5	1		
26	大河内分団大河内班	トヨタ	H12年 3月	普通	トーハツ H12	1		
27	大河内分団笹川班	ダイハツ	H13年12月	軽	シバウラ H 2	1		
28	大河内分団辻原班	三菱	H10年12月	軽	シバウラ S63	1		
29	宇気郷分団柚原班	日産	H24年 2月	普通	ラビット H24	1		
30	宇気郷分団与原班	日産	H20年12月	普通	トーハツ H20	1		
31	大石分団小片野班	トヨタ	H 7年12月	普通	ラビット H 7	1		
32	大石分団大石班	三菱	H10年12月	軽	ラビット H 4	1		
33	茅広江分団下茅原班	トヨタ	H12年 3月	普通	シバウラ H 7	1		
34	茅広江分団広瀬班	ダイハツ	H12年12月	軽	シバウラ H 3	1		
35	射和分団射和班	日産	H21年12月	普通	ラビット H21	1		
36	射和分団庄班	ダイハツ	H13年12月	軽	ラビット H10	1		
37	射和分団上蛸路班	ダイハツ	H12年 3月	軽	ラビット S62	1		
38	橋西分団1班	日産	H 8年12月	普通	シバウラ H 8	1		
39	橋西分団2班	ダイハツ	H18年12月	軽	トーハツ H18	1		
40	北分団大口班	トヨタ	H18年 3月	普通	ラビット H17	1		
41	北分団鎌田班	いすゞ	H13年 2月	普通	ラビット H13	1		
42	港分団	日産	H13年12月	普通	シバウラ H13	1		
43	松ヶ崎分団松崎浦班	トヨタ	H22年10月	普通	トーハツ H22	1		
44	松ヶ崎分団六軒班	ダイハツ	H13年12月	軽	トーハツ H12	1		

嬉野方面団

分団		区分	消防車両			小型動力ポンプ	
			積載車両	年式	種別	B-3級	台数
1	本部		スバル	H12年 3月	軽		
2	本部		ホンダ	H17年 3月	普通		
3	本部班		いすゞ	H13年10月	普通	ラビット H13	1
4	嬉野宇気郷分団		いすゞ	H11年12月	普通	ラビット H11	1
5	嬉野宇気郷分団上小川班		ホンダ	H 5年12月	軽	ラビット H 5	1
6	中郷分団		いすゞ	H12年11月	普通	ラビット H12	1
7	豊地分団		トヨタ	H10年12月	普通	ラビット H10	1
8	中川分団		いすゞ	H11年12月	普通	ラビット H11	1
9	豊田分団		トヨタ	H10年12月	普通	ラビット H10	1
10	中原分団		いすゞ	H12年11月	普通	ラビット H12	1

三雲方面団

分団		区分	消防車両			小型動力ポンプ	
			積載車両	年式	種別	B-3級	台数
1	本部					ラビット H18	1
2	米ノ庄分団第1部久米		ダイハツ	H19年10月	軽	シバウラ H19	1
3	米ノ庄分団第2部市場庄		日産	H16年12月	普通	ラビット H16	1
4	米ノ庄分団第3部中ノ庄		ダイハツ	H19年10月	軽	シバウラ H19	1
5	米ノ庄分団第4部上ノ庄		ダイハツ	H18年 3月	軽	トーハツ H18	1
6	天白分団第1部 曾原		日産	H16年 2月	普通	ラビット H16	1
7	天白分団第2部 小津		ダイハツ	H19年10月	軽	シバウラ H19	1
8	天白分団第3部 中道		ダイハツ	H18年 3月	軽	トーハツ H18	1
9	鵜分団第1部 笠松		ダイハツ	H19年10月	軽	シバウラ H19	1
10	鵜分団第2部 星合		ダイハツ	H14年 1月	軽	ラビット H14	1
11	鵜分団第2部 岡田					ラビット H17	1
12	鵜分団第3部 五主		ダイハツ	H18年11月	軽	トーハツ H18	1
13	小野江分団第1部西小野江		トヨタ	H10年 8月	普通	ラビット H10	1
14	小野江分団第1部東小野江					ラビット H 2	1
15	小野江分団第2部 肥留		ダイハツ	H18年11月	軽	トーハツ H18	1
16	小野江分団第3部 甚目					ラビット H 2	1
17	小野江分団第3部 舞出		ダイハツ	H19年10月	軽	シバウラ H19	1

飯南方面団

分団		区分	消防車両			小型動力ポンプ	
			積載車両	年式	種別	B-3級	台数
1	本部		トヨタ	H17年11月	普通	シバウラ H17	1
2	本部		三菱	H 8年 9月	軽		
3	本部					トーハツ H22	1
4	本部					ラビット H 4	1
5	粥見分団1班		日産	H20年12月	普通	トーハツ H20	1
6	粥見分団2班		スバル	H23年12月	軽	ラビット H23	1
7	粥見分団3班		ダイハツ	H22年11月	軽	トーハツ H22	1
8	粥見分団4班		日産	H21年12月	普通	ラビット H21	1
9	粥見分団5班		スバル	H21年12月	軽	ラビット H21	1
10	粥見分団6班		ダイハツ	H22年11月	軽	トーハツ H22	1
11	柿野分団1班		ホンダ	H12年11月	軽	シバウラ H12	1
12	柿野分団2班		スバル	H23年12月	軽	ラビット H23	1
13	柿野分団3班		ダイハツ	H21年11月	軽	シバウラH21(B2)	1
14	柿野分団4班		ホンダ	H 7年 3月	軽	シバウラ H 7	1
15	柿野分団5班		ホンダ	H 8年 2月	軽	トーハツ H 8	1
16	柿野分団6班		ホンダ	H 9年 3月	軽	ラビット H 9	1
17	柿野分団7班		スバル	H21年12月	軽	ラビット H21	1
18	柿野分団8班		ダイハツ	H19年12月	軽	トーハツ H19	1
19	仁柿分団1班		ダイハツ	H21年11月	軽	シバウラH21(B2)	1
20	仁柿分団2班		スバル	H18年12月	軽	ラビット H18	1
21	仁柿分団3班		ダイハツ	H21年11月	軽	シバウラH21(B2)	1
22	向粥見分団1班		スバル	H21年12月	軽	ラビット H21	1
23	向粥見分団2班		ホンダ	H11年12月	軽	ラビット H 4	1
24	向粥見分団3班		ホンダ	H13年12月	軽	シバウラ S60	1
25	向粥見分団4班		スバル	H23年12月	軽	ラビット H23	1
26	向粥見分団5班		日産	H21年12月	普通	ラビット H21	1

飯高方面団

分団	区分	消防車両			小型動力ポンプ	
		積載車両	年式	種別	B-3級	台数
1	本部				ラビット H18	1
2	宮前分団1班 下滝野	日産	H21年11月	普通	シバウラH21(B2)	1
3	宮前分団1班 下滝野				ラビット H11	1
4	宮前分団2班 宮前	日産	H21年11月	普通	シバウラH21(B2)	1
5	宮前分団2班 宮前				ラビットS60(C1)	1
6	宮前分団3班 作滝	トヨタ	H17年12月	普通	トーハツ H17	1
7	宮前分団3班 作滝				ラビット H 5	1
8	宮前分団3班 赤桶	スバル	H 9年 3月	軽	ラビット H 9	1
9	川俣分団1班 田引	日産	H18年12月	普通	ラビット H18	1
10	川俣分団2班 粟野	スバル	H17年12月	軽	ラビット H17	1
11	川俣分団2班 粟野				ラビット H 5	1
12	川俣分団2班 富永	日産	H21年11月	普通	トーハツ H21	1
13	川俣分団2班 富永				ラビット H 6	1
14	川俣分団2班 富永				ラビットH18(C1)	1
15	川俣分団3班 宮本	ダイハツ	H19年12月	軽	トーハツ H19	1
16	川俣分団3班 宮本				ラビット H18	1
17	川俣分団3班 七日市	スバル	H10年 3月	軽	ラビット H10	1
18	森分団1班 犬飼				ラビット H10	1
19	森分団1班 深野	スバル	H18年12月	軽	ラビット H18	1
20	森分団2班 家野	日産	H21年11月	普通	トーハツ H21	1
21	森分団2班 家野				ラビットS40(C1)	1
22	森分団2班 久谷	日産	H20年12月	普通	トーハツ H20	1
23	森分団3班 塩ヶ瀬	スバル	H10年10月	軽	ラビット H10	1
24	波瀬分団1班 乙栗子	ダイハツ	H19年12月	軽	トーハツ H19	1
25	波瀬分団1班 乙栗子				ラビット H 5	1
26	波瀬分団1班 加波	日産	H20年12月	普通	トーハツ H20	1
27	波瀬分団1班 桑原	スバル	H17年12月	軽	ラビット H17	1
28	波瀬分団2班 波瀬	日産	H21年11月	普通	トーハツ H21	1
29	波瀬分団2班 美滝	日産	H18年12月	普通	ラビット H18	1

方面団別	区分		小型動力ポンプ付車両		その他車両		小型動力ポンプ等	
	普通車両	軽車両	普通車両	軽車両	普通車両	軽車両	B-3(2)	その他
松阪方面団	29	11	3	1	40			
嬉野方面団	7	1	1	1	8			
三雲方面団	3	10			17			
飯南方面団	4	19		1	25			
飯高方面団	10	8			26	3		
団合計	53	49	4	3	116	3		

消防団員の処遇

報 酬（年額）

（単位：円）

統括団長	副統括団長	方面団長	方面副団長	分団長	副分団長	部 長	班 長	団 員
120,000	80,000	80,000	60,000	50,000	35,000	32,000	31,000	30,000

訓練等出場手当

1人、1回につき 3,500円

水火災等出動手当

1人、1回につき 4,000円

機械器具点検手当

1人、年額 4,800円

入校手当

1人、1日につき 7,000円

ラッパ隊手当

1人、年額 7,000円

隊長手当、年額 3,000円

※ 注）報酬及び諸手当は年間2回に分割して支給

公務災害補償等

団員が公務により死亡し、負傷し、若しくは疾病等にかかった場合には、その団員又はその者の遺族若しくは被扶養者に対し損害を補償します。

退職報償金

団員が退職した場合には、別に定める退職報償金を支給します。

被服等の支給及び貸与

活動服、アポロキャップ、ヘルメット、団員手帳、長靴 …………… 全員

Tシャツ、雨衣、ケブラー手袋

盛夏服 …………… 全員

制服、制帽 …………… 分団長以上及び女性団員

消防団の主な活動

<1>全市的に行う訓練行事等

本部幹部会議
出初式
辞令交付式（入団式）入団者訓練 幹部研修
松阪市消防団小型ポンプ操法大会
行政視察研修
安全運転研修

<2>各方面団で行う訓練行事等

方面団幹部会議
夏季訓練
防災訓練
水防訓練
防火パレード
年末防火広報火災予防運動
普通救命講習会
年末夜警
放水訓練
ラッパ隊訓練
消防団車庫点検
祭り等の警備

<3>女性消防団の活動

普通救命講習会
人形劇（防火・救急啓発）
防火パレード
防火チラシ配布
年末防火広報

<4>その他広報活動

消防団ホームページによる広報
（ <http://www.city.matsusaka.mie.jp/> ）
ケーブルテレビ（防火啓発）

平成 25 年度消防団活動一覧

	日	曜日	松阪方面団	嬉野方面団	三雲方面団	飯南方面団	飯高方面団	
			行事	行事	行事	行事	行事	
4	2	火	団本部幹部会議					
	4	木				方面団幹部会議	方面団幹部会議	
	5	金	方面団幹部会議					
	7	日		方面団幹部訓練 方面団幹部会議	幹部・新入団員訓練			
	9	月			方面団幹部会議			
	11	木	松阪市消防団幹部歓送迎会					
	14	日	副分団長以上訓練					
	21	日	新入団員辞令交付式・入団者訓練					
5	12	日				機械器具操作訓練		
	19~20	日~月	消防団視察研修（紀宝町消防団/十津川村消防団）					
	24	金		方面団幹部会議				
	26	日		方面団春季訓練				
	29	水	第 1 回女性消防団員会議					
6	4	火	団本部幹部会議					
	6	木	方面団幹部会議		水防訓練	方面団幹部会議		
	9	日	第 1 回安全運転研修					
	10	月					方面団幹部会議	
	16	日	第 2 回安全運転研修					
	21	金					普通救命講習会	
	23	日	操法出場隊指導（宮町訓練センター）					
	30	日				方面団夏季訓練		
7	6	土				水辺のカーニバル警備		
	7	日	普通救命講習会			普通救命講習会		
	14~15	日~月				祇園祭警備		
	21	日	西地区合同訓練					
	28	日			方面団夏季訓練			
8	3	土		嬉野おおきん 祭り警備				
	6	火	団本部会議					
	6	火		方面団幹部会議				
	8	木	方面団幹部会議					
	12	月				方面団幹部会議		
	13~15	火~木					夏祭り警護	

	日	曜日	松阪方面団	嬉野方面団	三雲方面団	飯南方面団	飯高方面団	
			行事	行事	行事	行事	行事	
	18	日		方面団幹部会議				
	18	日	三重県消防協会松阪支会研修会					
	20	火					方面団幹部会議	
	24	土				いきいき夏祭警備		
	28	水				方面団幹部会議		
9	7~8	土~日	三重県消防学校 指導員科入校					
	14	土					夏祭り警護	
	22	日	南地区図上訓練					
	28	土		方面団幹部会議				
	29	日		方面団操法発表				
10	1	火	団本部幹部会議					
	3	木					方面団幹部会議	
	5~6	土~日	三重県消防協会 松阪支会 視察研修~東京~					
	7	月	方面団幹部会議			方面団幹部会議		
	8	火			方面団幹部会議			
	9	水	第3級陸上特殊無線技士免許講習					
	13	日	松阪市消防団小型ポンプ操法大会					
	20	日	松阪市総合防災訓練					
	26	土				深野棚田祭警備		
	30~31	水~木	第19回全国女性消防団員活性化ぎふ大会					
11	2~3	土~日	三重県消防学校 幹部科入校					
	9~15	土~金	秋季全国火災予防運動					
	10	日	車庫点検					
	14	木	第2回女性消防団員会議					
	17	日	松阪市地域連携 防災訓練		方面団秋季訓練	ふれあい祭り		
	18	月				本部団長会議		
	24~25	日~月	消防団120年、自治体消防65周年記念大会~東京ドーム~					
	28	木					高見トンネル 合同防災訓練	
12	5	木	団本部幹部会議					
	9	月	方面団幹部会議					
	10	火		方面団幹部会議		方面団幹部会議	方面団幹部会議	
	13	金	方面団年末懇親会					

	日	曜日	松阪方面団	嬉野方面団	三雲方面団	飯南方面団	飯高方面団	
			行事	行事	行事	行事	行事	
	14	金	三重県消防協会 松阪支会 理事会(意見交換会)					
	20	金	松阪市消防団幹部年末懇談会					
	27~31	金~火	年末夜警	年末夜警(30日)	方面団幹部会議(30日) 年末夜警(29・30・31日)	年末夜警(29・30日)	年末夜警(30日)	
1	12	日				どんど火警備		
	13	月	松阪市消防出初式(クラギ文化ホール・鈴の森公園)					
	19	日				ポンプ一斉放水		
	19	日	消防団員健康診断					
2	2	日	消防団員一日教育(警防講習会・消防学校)					
	4	火	団本部幹部会議					
	5	水				方面団幹部会議		
	6	木	方面団幹部会議					
	7	金				飯南・飯高合同幹部訓練		
	12	水					方面団幹部会議	
	13~14	木~金	三重県消防学校 団長科入校					
	16	日				車庫点検		
23	日	消防団員一日教育(警防講習会・消防学校)						
3	1~7	土~金	春季全国火災予防運動					
	2	日			方面団春季訓練			
	7	金				方面団幹部会議		
	12	火	方面団幹部会議					
	23	日	三重県消防大会(三重県総合文化センター)					
	30	日		車庫点検 方面団幹部訓練				

消防団の取組み等

1 災害への対応能力の向上

(1) 大規模地震、火災等を想定した災害対応図上訓練

大規模地震、火災等発生時における関係機関等との連携の強化、現場での役割分担、対応力の向上、団幹部の状況を踏まえた迅速かつ正確な判断能力の養成など、更なる地域防災力の強化を図ることを目的として、平成22年度から図上訓練を実施している。



(図上訓練の様子)

(2) 津波発生による避難訓練

東日本大震災による津波被害を受け、住民を確実かつ安全に避難させるため、図上訓練だけではなく、実際の避難場所まで歩いて、避難経路、時間等の検証を行い課題等を検証した。今後も各方面団、地区にあった避難経路等を検証し、住民を確実かつ安全に避難誘導できるように実施していく。



(避難訓練の様子)

(3) 消防訓練塔を活用した消火訓練

消防団員が火災活動を迅速・確実に対応するための技術を身に付けるための訓練施設「消防訓練塔」を松阪市消防・防災訓練センターに設置し、火災対応訓練等の訓練を定期的の実施している。



(消防訓練塔を活用した消火訓練の様子)

(4) 大規模水害に備えた水防訓練

近年増加する豪雨災害や大規模水害に備え、実践に即応した訓練を行うことで水防体制の確立を目的に実施している。各参加機関が連携した実働訓練を実施し、参加者全員が防災への意識を高めている。



(水防訓練の様子)

2 通信体制の整備

東日本大震災を受け、更なる通信体制を確立し最前線で活動している団員がより安全に活動できるよう、分団内での通信を充実させるために各車両に3機のトランシーバーと情報収集用ラジオを配備する。

火災や地震・風水害等の災害発生時、消防団が効果的な活動を行うためには、指揮統制や情報の共有等が必要不可欠となることから、平成15年度から消防団波の携帯無線線を各分団に計画的に配備し、現在、135基の携帯無線機を活用し、消防団活動を実施している。



(無線機取扱訓練の様子)

3 安全管理体制の確立

(1) 安全管理員と伝令員の設定

消防団活動の安全管理の徹底を図るため、現場で団員の活動を監視し、危険行動等の危険要因を排除する安全管理員(副分団長)と、現場指揮本部と現場活動中の分団長の無線連絡を専門に行う伝令員(部長又は班長)を各分団で任命し、災害現場等での事故防止に努めている。また、安全管理員と伝令員には、それぞれ反射ベストと腕章の装着を義務付けている。



(訓練での安全管理員の様子)



(伝令員の無線訓練の様子)

(2) 安全運転研修の実施

平成 19 年度から自動車学校での運転適性検査、消防車両を使用した運転技術診断、同乗者安全確認診断等の安全運転研修事業を行い、車両運用時の安全管理の徹底を図っている。



(運転技術診断の様子)



(運転適性検査の様子)

4 防火・救急啓発活動

火災予防思想や、応急手当に関する正しい知識と技術を地域住民に対して、解りやすく、また幅広く普及させるため、平成 20 年から女性消防団による手作りの人形劇による防火・救急啓発活動を展開している。



(イベントでの人形劇の様子)



松阪市消防団の無線機配置図

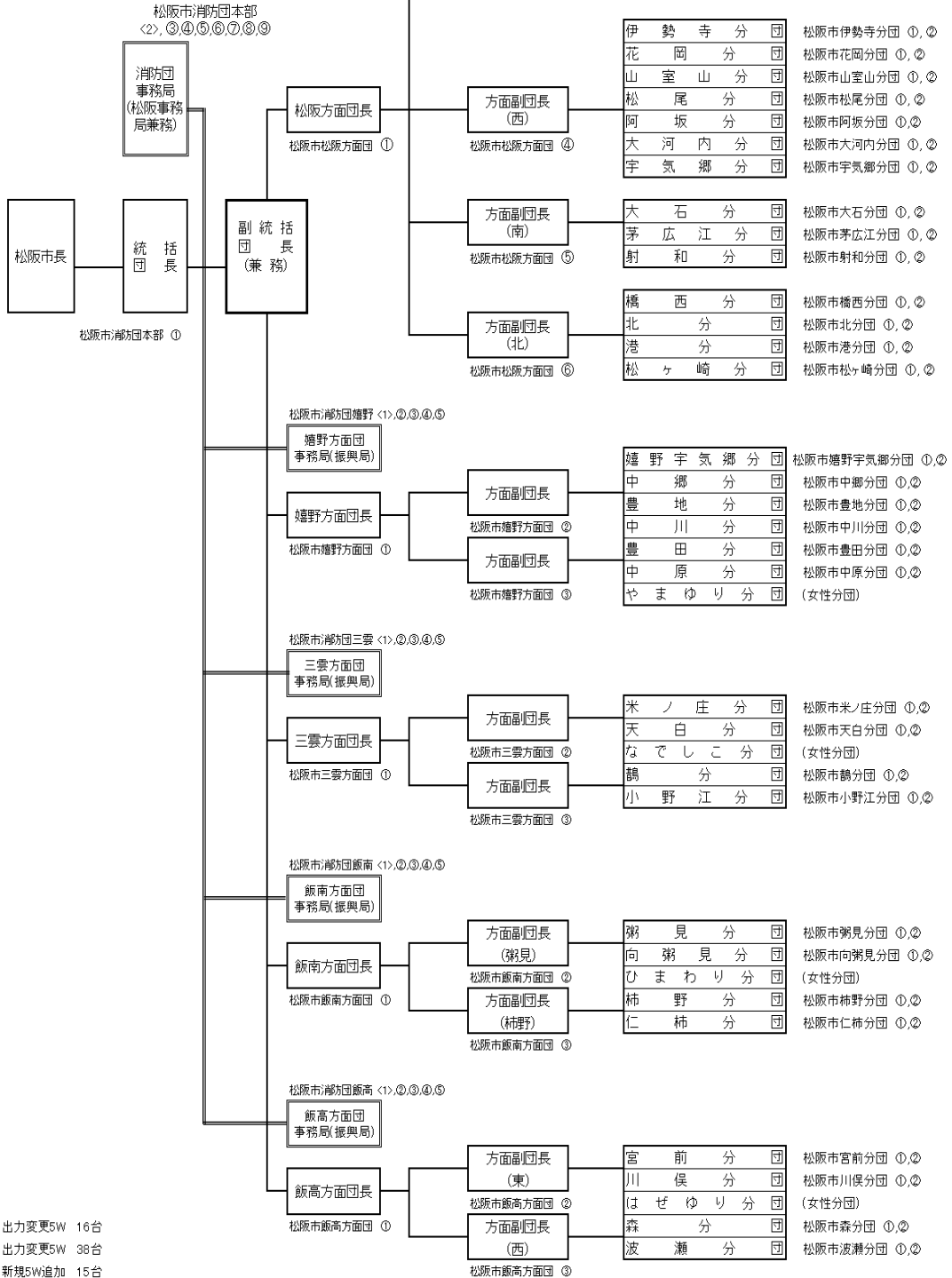
2010年9月6日

- 1) 松阪方面団及び松阪市消防団本部全て5Wに変更済 計63台
- 2) 嬉野、三雲、飯南、飯高各方面団の総ては3W 計52台
- 3) 松阪市消防団〇〇<1>及び松阪市消防団本部<2>は、可搬型 10W 計5台
- 4) 携帯型無線機5W新規(各団本部へ3基追加) 計15台

総計 135局

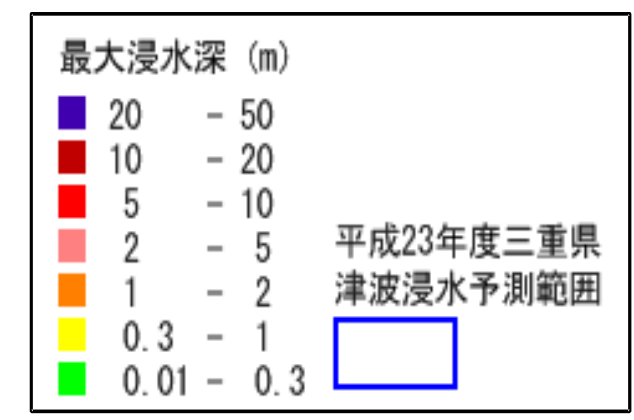
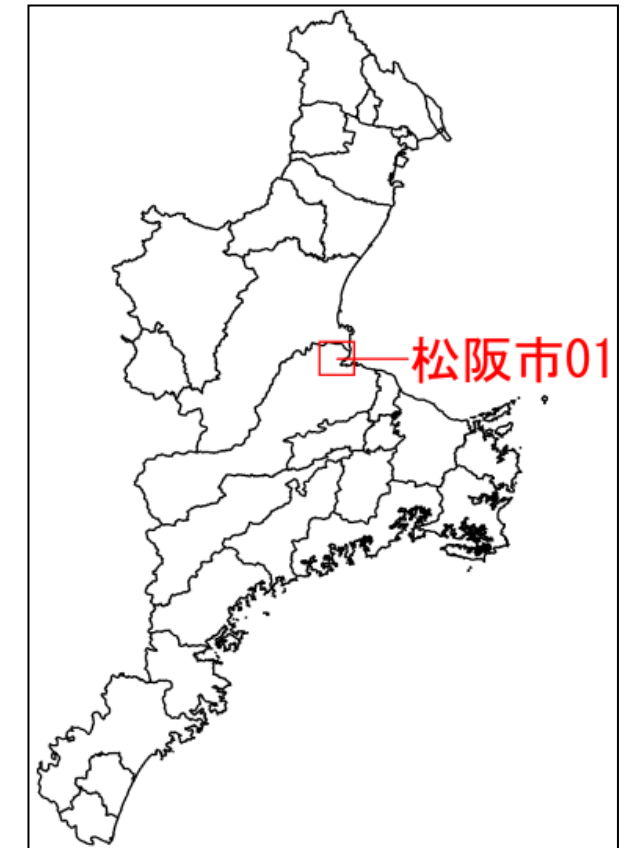
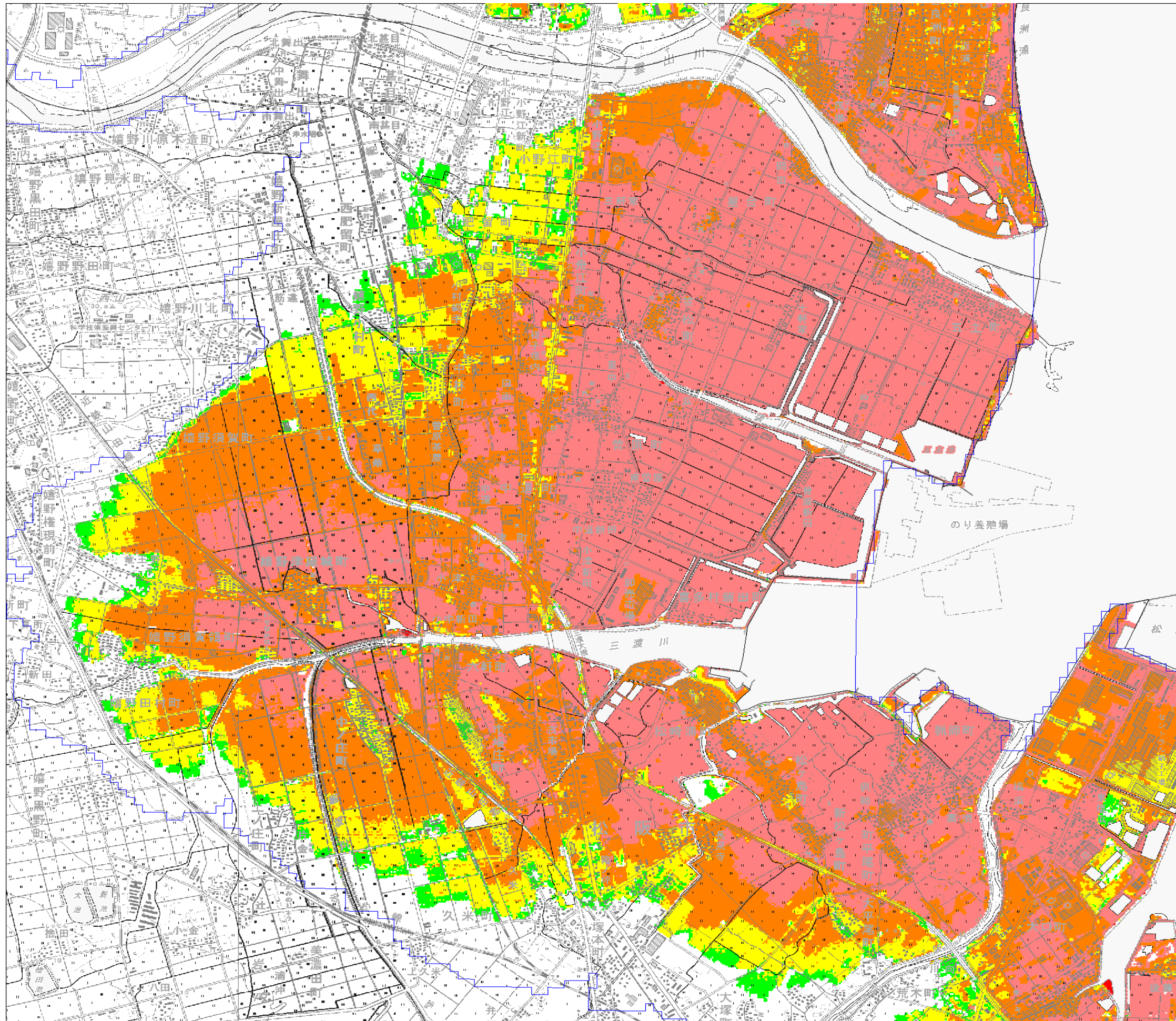
呼出名称 ○数字→5W

呼出名称 <数字→10W (消防団波及び松阪消防波搭載)

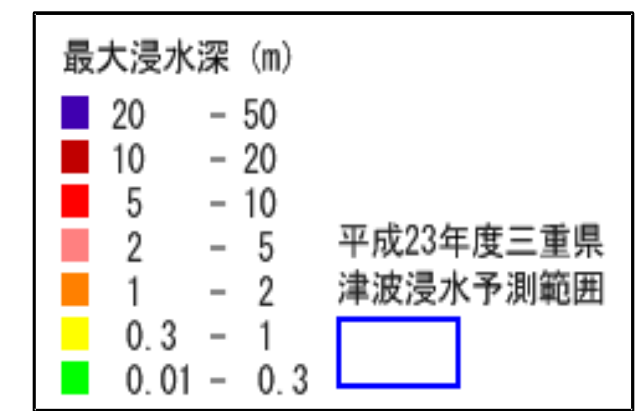
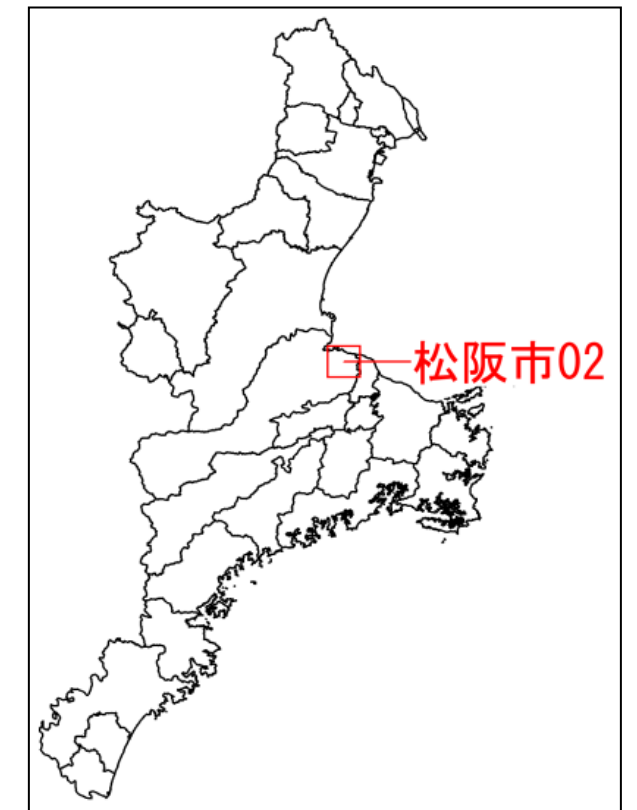
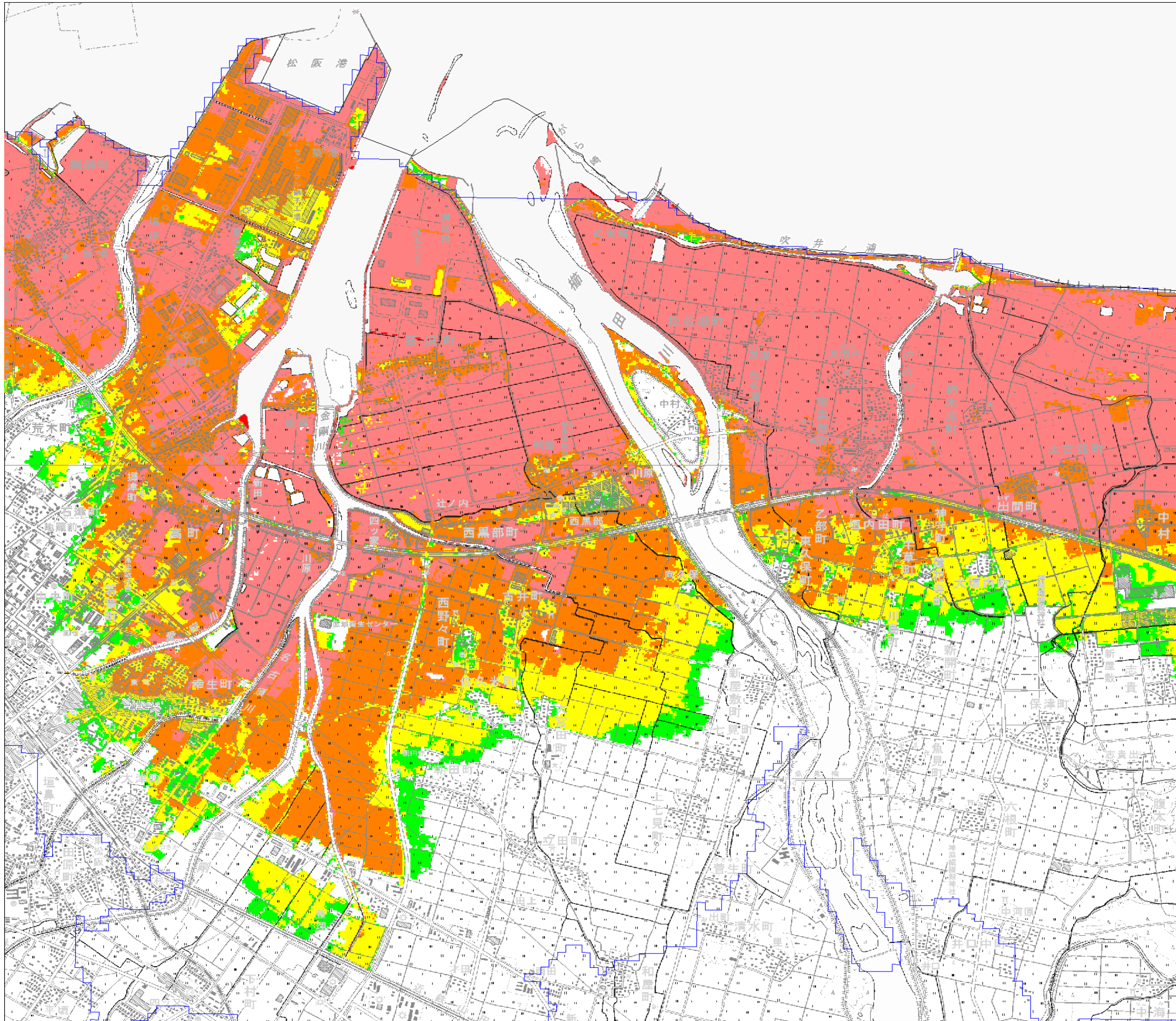


H20年度 出力変更5W 16台
 H22年度 出力変更5W 38台
 H22年度 新規5W追加 15台

津波浸水予測図 松阪市 (1)

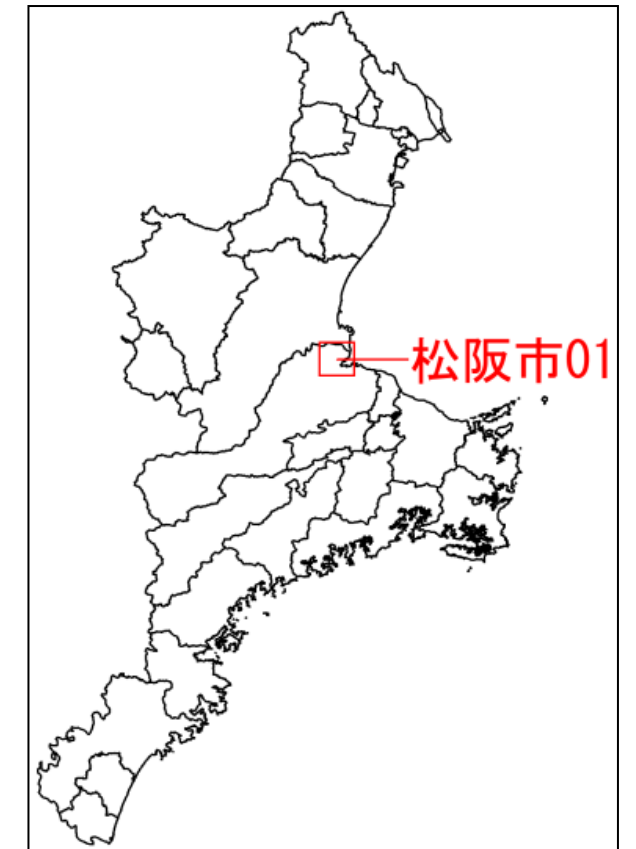
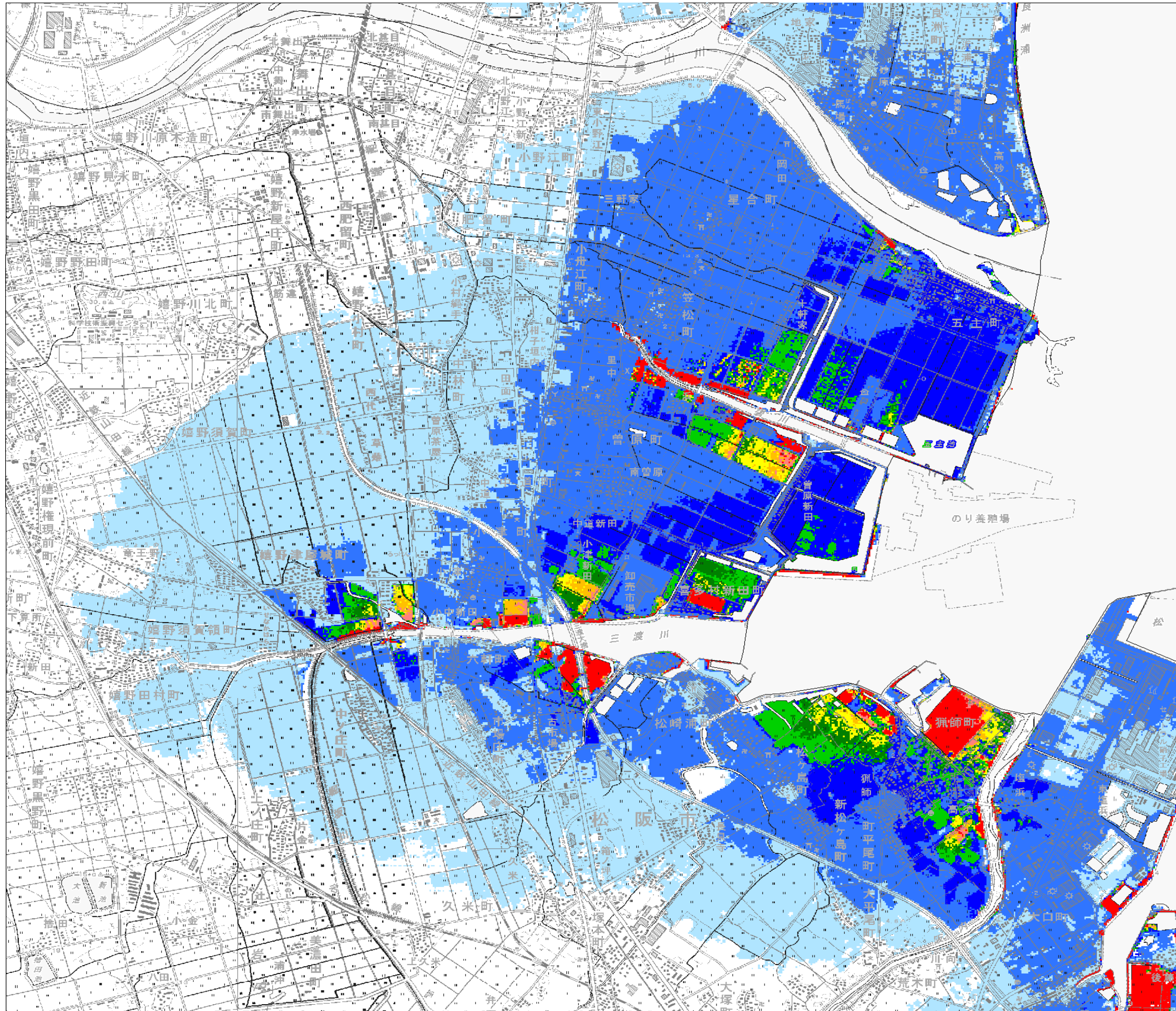


津波浸水予測図 松阪市 (2)



津波浸水深30cm到達予測時間分布図

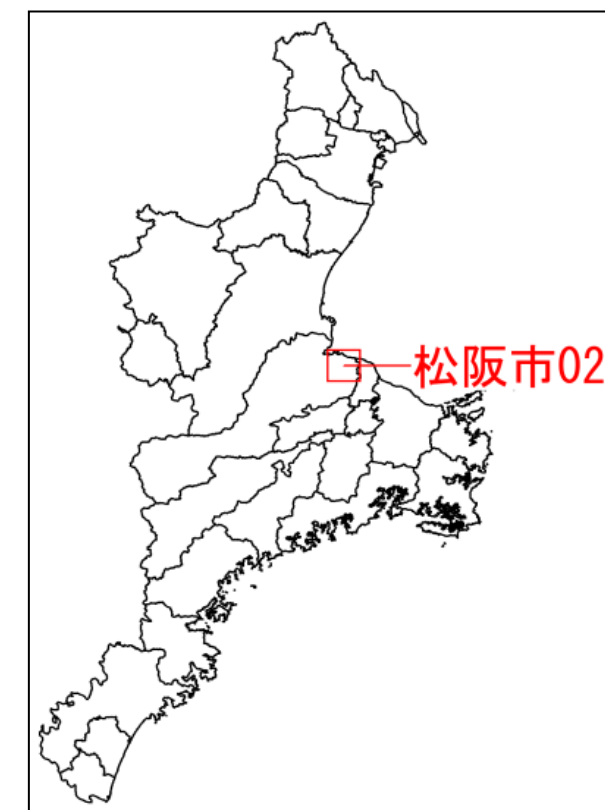
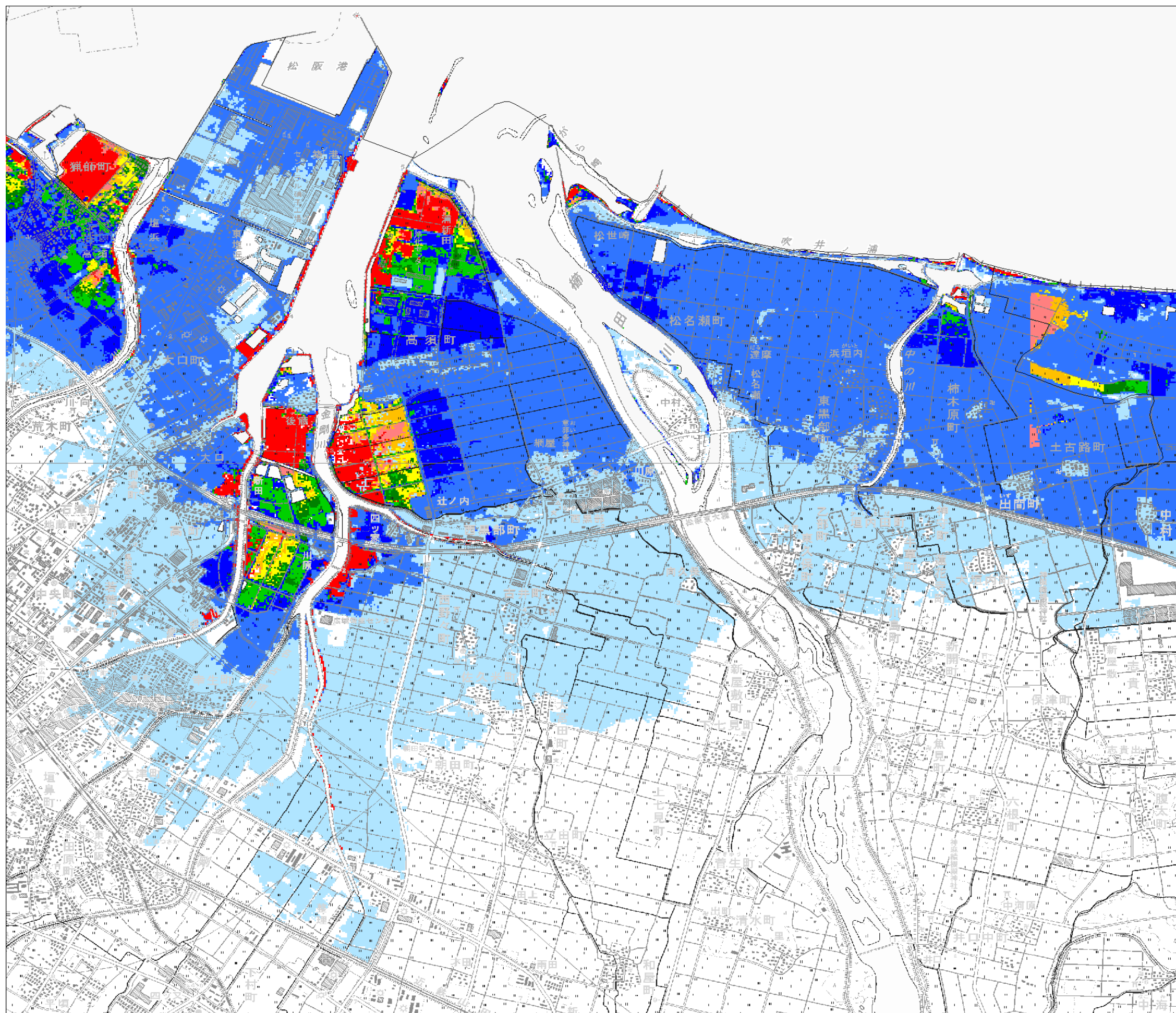
松阪市 (1)



到達時間 30cm(分)

■	0 - 10
■	10 - 15
■	15 - 20
■	20 - 25
■	25 - 30
■	30 - 40
■	40 - 60
■	60 - 90
■	90 - 720

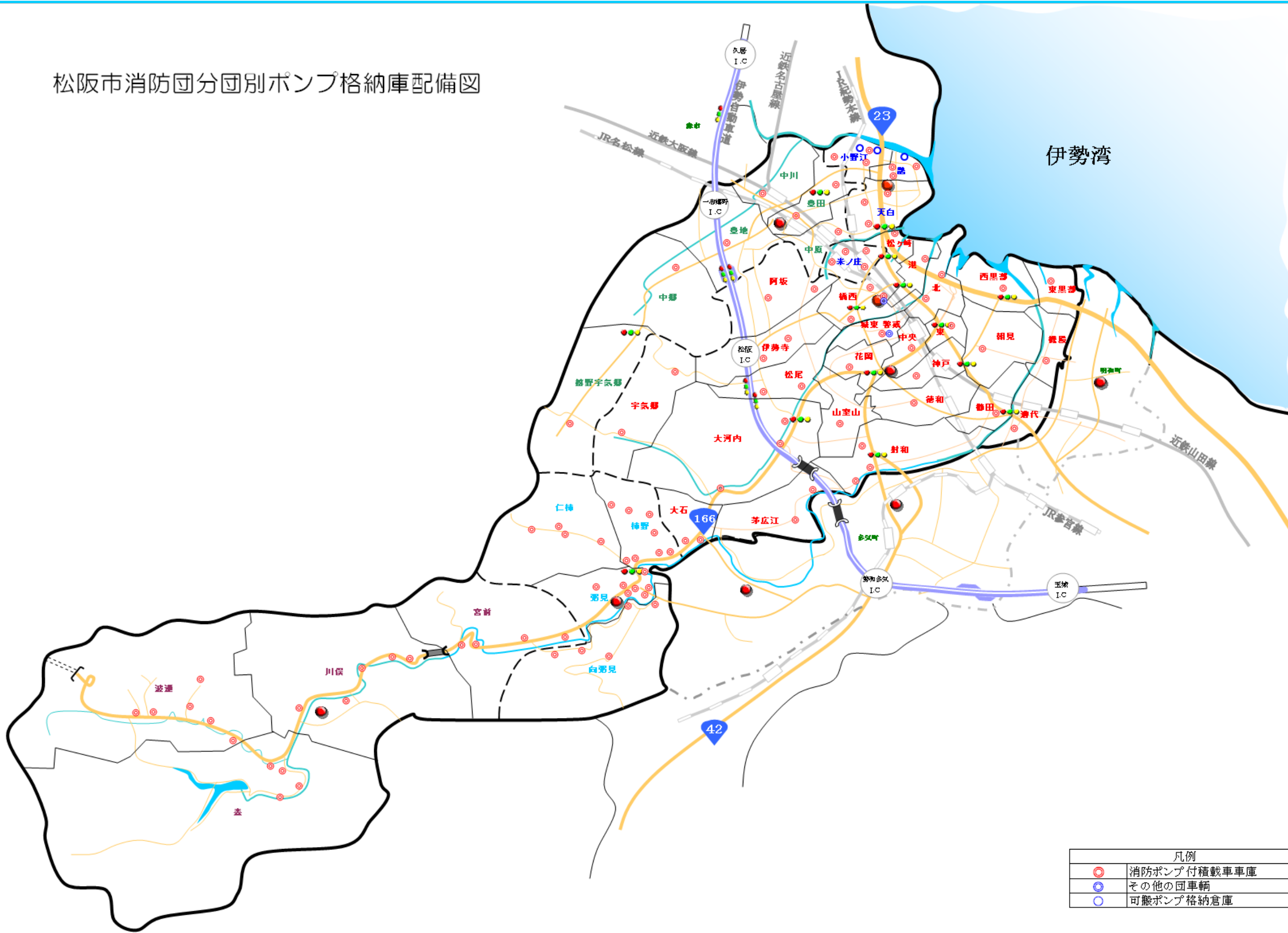
津波浸水深30cm到達予測時間分布図 松阪市 (2)



到達時間 30cm(分)

■	0 - 10
■	10 - 15
■	15 - 20
■	20 - 25
■	25 - 30
■	30 - 40
■	40 - 60
■	60 - 90
■	90 - 720

松阪市消防団分団別ポンプ格納庫配備図



伊勢湾

凡例	
●	消防ポンプ付積載車車庫
○	その他の団車輛
○	可搬ポンプ格納倉庫



松阪市消防団

〒515-0818

三重県松阪市川井町 1001 番地 1 (松阪地区広域消防組合消防本部内)

松阪市消防団事務局 TEL 0598-25-1414 FAX 0598-21-3080